

第8回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会第8回臨時会	
事務局（担当課）	教育部庶務課	
開催日時	令和元年8月1日 午前9時	
開催場所	807・808会議室	
出席者	委員	三田 一則（教育長）、北川 英恵（教育長職務代理者）、白倉 章、 藤原 孝子、樋口 郁代
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導 課長、統括指導主事2名、指導主事
	事務局	庶務課庶務グループ係長、指導課庶務・事業グループ係長、庶務課庶務 グループ主事、指導課庶務・事業グループ主事
公開の可否	一部公開 傍聴人 14人	
非公開・一部公開 の場合は、その理 由		
会議次第	第31号議案 豊島区立学校教科用図書採択について（審議） （指導課）	

事務局)

本日、委員の皆様全員おそろいでございます。傍聴希望者が14名おります。

なお、本日は、教科書審議終了後に鼻コレクション館の視察を予定しております。予定では16時45分からとなっております。どうぞ宜しくお願いいたします。

三田教育長)

皆さん、おはようございます。

只今から、第8回教育委員会臨時会を開催いたします。

本日の署名委員を申し上げます。北川委員、白倉委員、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

傍聴希望が14名おりますが、これを了承してよろしいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、傍聴者の皆さん、ご入室ください。

<傍聴者入場>

三田教育長)

昨日と傍聴者が入れ替わっているところもあるかと思しますので、改めて、傍聴者への諸注意ということで庶務課長よりご説明をお願いいたします。

庶務課長、どうぞ。

<庶務課長 注意事項説明>

三田教育長)

説明が終わりました。昨日に続いて、大変暑さが厳しく体調が心配されますが、どうぞ、健康に十分注意されて傍聴を宜しくお願いいたします。

(1) 第31号議案 豊島区立学校教科用図書採択について (審議)

三田教育長)

それでは早速、審議に入りたいと思います。

本日は、国語の選定から参りたいと思いますが、事務局より説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

只今、説明が終わりましたが、説明についての何かご質問等ございますか。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

詳しくまとめていただいております、ありがとうございます。東京書籍は全学年で合冊版であるというご説明がありましたが、合冊版は5・6年生だけで、それ以外の学年は上下巻に分かれているということよろしいでしょうか。

三田教育長)

資料の記載が間違っているのか。どちらが正しいですか。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

大変失礼いたしました。記載に加えて説明も間違っております。5・6年生のみ合冊版で、1年生から4年生までは上下巻の分冊版でございます。お詫びして訂正いたします。失礼いたしました。

三田教育長)

では、訂正するということが宜しいですか。

指導課長)

宜しく願いいたします。

三田教育長)

他にございますか。宜しいですか。

それでは、4社ございますが、ボリュームが結構ありますので、15分程時間をとってご覧いただければと思います。時間が足りないようでしたら考えますが、まずは時間内でご覧いただければと思います。どうぞ宜しく願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは時間になりましたので、早速、議論を進めてまいりたいと思います。どなたからでも結構です。

樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

4社とも大変練られた教科書であって、見ても楽しい、読んでも楽しい、声に出しても楽しい、書いてみても書きたくなるような、そんなところが盛り沢山の内容でした。今朝の新聞によりますと、全国学力調査の件でございますが、国語につきましては、とりわけ集めた情報をもとにして考えを表現する力、複数の情報を結び付けて根拠を明らかにして自分の考えを伝えること、目的条件を明確にして必要な情報を見つけ出すというところに課題があるというような指摘の記述がされていました。

もちろん、国語には、こういう説明的な文章の中で、物を考えたりすることばかりではなく、文学的な文章で情緒や心をしっかりと広げていくということも大切なことですが、とりわけ今の子供たちが、情報があふれる中で、情報を正確に読み取って、それを一つの情報ではなくて、取捨選択をしながら、では自分はどう考えるかという正しい判断力に結び付けるという、そういうところを各教科書会社がどのように扱っているのかということ、大きな興味を持って見ていました。

それぞれの会社がそれぞれに工夫をされていることがよくわかりますし、どの教科書からもこのことが補えるというように感じております。

とりわけ東京書籍の説明的な文章のところ、複数の情報から振り返っているところや、これは6年生ですが、5年生の和の文化からの振り返りで情報整理がさせているところな

どは、非常に興味深いと思います。

また、光村図書においても、鳥獣戯画を読むという説明的な文章が6年生にあります。この鳥獣戯画を読むという説明文自体も説明文としての構成をしっかりと学ぶ教材だと思えますが、そこから情報を取り出して、それをさらに日本文化への発展に結び付けて、情報整理し直しているというところは、この業者は大変興味深いと私は思います。

一方、1年生の一番初めで、どんなことを学ぶかなというところを見てみますと、それぞれ楽しいです。楽しいながらも、子供たちの発する言葉を先にとるか、しっかりと学習をして、文字というところに向き合せているかなどというところから、教育出版や学校図書は魅力があると思います。

私は総体的なバランスから見て見ると、光村図書に心を惹かれているところがございませぬ。

三田教育長)

では、白倉委員いかがですか。

白倉委員)

私も今日の新聞の全国学力の結果を見て、今、樋口委員が申し上げたように、子供たちが文章を図とか、グラフとか、写真と結び付けて読み取り、自分の考えを発表することが弱いところがあります。根本的には、これは全ての教科書の基礎となる読解力が弱いのではないかと考えており、読解力が身につけてくれば、こういうことももっと進むし、出来るようになってきます。

今そのことを非常に問題にしているのは、「東大ロボ」で著名な国立情報学研究所センター長の新井紀子さんが、読解力の衰えは果てしないということを強調して言っていて、どうしたら改善するかというようなことも書いてあります。そういう視点で見ると、光村図書の深い学びにはそういうことが書いてあるし、それから東京書籍でも、今、樋口教育委員が言ったようなことも書いてあります。

私は、その他のところで、この4社の共通事項を調べてみましたが、4社とも、年間を通じて、どのように見直しを立てて学習するのかということでは、光村図書と東京書籍が少し使いやすいそうですが、ほとんど一緒です。

古典の扱い方については、学年の発達段階を考慮して、俳句とか短歌、漢詩、狂言とかは、どの社も扱っています。

季節の紹介、季節の便りというのですか。春夏秋冬、4社ともに扱っていますが、ただ、光村図書は春夏秋冬に合った題材が非常に素晴らしいと思います。

本の紹介では、単元が終ったあと、その教材に合った図書を紹介して、こういう本を読んだ方が良いですといった事や「図書館の利用のすすめ」というのを、非常に詳しく書いてある。

最後に一言だけ。「大造じいさんとガン」という題材を4社とも扱っていますが、光村図書には本文の先に少し前書きがあります。これは作者が三十五、六年ぐらい前に狩人に誘われて大造じいさんのところに行ったときの話で、これをいろいろ端で聞かされてこの物

語を書いたものです。この大造じいさんの話を読むときには、いろいろ端にいるような気分で読むというようなこともないので、そこは非常に情景意識してあってすばらしいと思い、こういうことを書いてあるのが光村図書だけです。他の社も題材として扱っていますが、そういう前書きのことを書いているのは光村図書だけです。

全体的に見てみますと教師が教えやすく、児童生徒も学びやすいという点から考えて、若手教員も教えやすいのではないかと思い、私は光村図書がベストだと思います。

三田教育長)

作品を扱うにしても、その作者が取材を重視して、そこから物語を作ったということが教材に反映されているというご指摘だと思います。

では、北川委員、どうぞ。

北川委員)

まず、国語ということで、この教科書をもって日本の言葉、国語に対してどれだけ子供たちの関心を高められるかとか、語彙を豊かにするかとか、そういう面から教科書に載っている作品数などを見てみましたところ、読むことの作品数としては、光村図書が詩歌の面でも、非常に多く載っているということを感じました。

また、4社それぞれに季節の言葉、季節感ということを非常に大事にされていましたが、より意識しているのは光村図書ではないかと感じました。

私も、子供たちが自分の考えをまとめて、ディベートとか、発表するという場面が教科書の中でどのように取り上げられているかということ調べたときに、東京書籍では、例えば5年生の50ページでいろんな資料を活用するか、また6年生では、その場に応じた言葉遣いを考えて話すというようなところで、上級生になってくるといろいろと臨機応変に話す段階にありますから、その時々に応じた適切な言葉を選ぶための方法というのが載っていました。

さらに、光村図書では、5年生の128ページには、附箋を使って考えをまとめるという例が載っております。私たちも普段このような手法をよくとりますが、ただ単に考えを出しましょうというよりは、こういう技法の一つ使うことによって、より自分の考えをまとめられるし、また相手の考えも見えやすくなるという具体的な方法、効果的な方法が載っております。また、統計資料の読み方とか、そういうところでも、詳しく載っていたと思います。

それから、教育出版では、例えば4年生では落語で圓窓師匠、「ぞろぞろ」という題材を扱っています。圓窓師匠が実際に豊島区にいらしていただいて、落語の教室を開いている学校もあります。私もある学校で落語の教室を開いた際に、直接、圓窓師匠に私の座布団をお貸ししたエピソードがあります。そのようなところで、非常に身近な題材が取り上げられていると思いました。それから、豊島区は漫画、アニメのまちでもありますので、教育出版の「漫画の秘密を調べて発表しよう」とかは、豊島区に合った内容のものを取り上げられていると思います。

それと、学校図書では、この教科書に1年生がどこから入っていくかというところで、

文字を何も読まず、意識せずに、まずは声のところから、子供たちが幼児期に文字のことを勉強していてもしていなくても、この国語に入っていけるというような工夫がされているということは、非常に魅力的だと思いました。

最後に、4社を見た段階で国語に対する関心を高めるという意味では、私も光村図書を推薦したいと考えております。

三田教育長)

では、藤原委員どうぞ。

藤原委員)

私は、国語を学ぶときに読書活動はとても大事だと思っており、そこに注目して見てみました。まず、東京書籍では、「本は友達」というコーナーがあって、図書館に親しめるいろいろな工夫がされていると思いました。また、学校図書では、「読書のへや」というところで本の紹介をしております。

さらに、教育出版では、「おすすめ図書カード」というようなことで、「図書のすいせん会」とか、そういったことも取り上げています。

それから、光村図書では、「本は友達」というコーナーがあり、各学年で読書への関心を高まるような工夫があります。ですので、どの出版社も読書活動について力を入れており、子供たちに本や読書への楽しみをいざなうという点では、とても配慮がされていると思いました。

一方で、国語を学ぶときの学び方についても着目してみました。まず、東京書籍では最初に学び方が示され、身に着ける力とか、学び方について取り上げています。また、学校図書では「学習の手引き」、さらに、教育出版では「国語は大事」、それから教育出版では各学年で学ぶことが見渡せるようになっていて、学びの地図的なページがあり、これは大変興味深いし、子供たちにわかりやすいと思いました。

光村図書は、どの学年でも前の学年のことを振り返りつつ、これからの国語の学びについて見渡そうということで、見通しの持てる構成になっており、とてもわかりやすい、わかりやすさが光村図書のとてもいいところだと思いました。

あとは、目に優しいとか、読みやすさとか、あるいは中に配列されている物語文とか、あるいは解説とか、いろいろありますが、そういったことからすると、私も光村図書が一步秀でているのではないかと思いました。

三田教育長)

今、各委員のご発言は、国語改訂の趣旨だと思います。それから、これから求められる教育の目標、とりわけ国語なので言語活動の問題ですが、どんな力を育てていくのか、そのためにどんな内容をどのように学んでいくかということが求められているかどうかということで、各社それぞれに工夫があるということかと思います。

私は、少し違った視点で、入門期はどうだろうかということで見させてもらいました。まず、東京書籍ですが、大変おもしろいと思ったのは、音から入っています。学校図書もそういう手法です。「とんとんとん、はじめるよ」と来て、「とんとんとんとん、はじま

るよ」と、こういう感じで、いわゆる幼少期に幼児教育の中で、リズムで遊ぶとか、音楽表現でやってきたようなことを取り入れながら、文字に繋げるという工夫をしています。

もう一つ特徴的なのは、いわゆる文字指導に43ページ割いています。私は、自分が教育現場にいたことがあり、文字に対する興味・関心というのは、言葉に対する興味・関心と表裏一体でないといけないと思っています。そういう点で、文字の必然性を丁寧に場面設定しながら、文字を引き出しているという点で良いと思いました。5・6年生は合冊ということで、学年に応じて、本の分量を調整しながら、教材を提出しているという点でも良いと思いました。

それから、学校図書も子供の生活に基づきながら、入門期を「言葉は友達」ということで、挿絵を入れながら扱っています。挿絵もほんのりとした子供の情操を捉えた工夫しています。また、文字指導には21ページ割いています。

それから、教育出版は「なかよしのき」ということで、生活場面と挿絵を生かしながら文字に繋げる活動を組織し、その後、27ページ割いて文字指導を行います。あとは、文脈に即して、助詞とか、発音とか、拗音とか、そういうことを取り出しているという工夫をしています。

最後に、光村図書は入門期に遠足の場面をカラーで設定し、ここだけで特別に9ページ割いています。そうした場面を使って子供たちから言葉をいっぱい拾い出していく設定となっており、発達段階の特徴を生かした手法で、スタートカリキュラムでの接続としては良いと感じました。

それから、かな文字の指導も光村図書は他社と違って、徹底して文に即しながら言葉を拾い出していきます。それから、その後も一文字一文字のかな文字だけではなく、連文になったときの入り口も丁寧に扱っているという点で、対話の技法をここで取り入れながら扱っているという点で、非常におもしろく見させていただきました。

他の学年でも、3年生ぐらいになると説明文だけではなく名作と言われている、いわゆる教師が子供と一緒に真剣勝負する、そういう作品がきちんと各社ともに用意されていますが、その用意の仕方に工夫の違いがあるということで、それぞれに編集の努力ということを大変心強く感じた次第でございます。

先程、白倉委員からも、新井先生の読解力の話がありましたが、私たちも一昨年、東京都教育委員会主催の施策連絡会で新井先生から直接ご講演いただきましたが、読み解きの問題というのは、全国的にも、本区においても子供たちの大きな課題だと思います。言葉に対する興味・関心、文字に対する興味・関心という入り口がいかにかしっかりと耕され、学年進行とともに力を付けていくのかということが、先程来、委員方々からご指摘いただいていることでございます。総体的に見て、そういう学年の発達特性だとか、情操というものも含めて語感・語彙をしっかり体系付けて学ぶという点で、やや光村図書が優れているのではないかと感じております。

他に何か発言の漏れとかありましたら、お願いいたします。宜しいですか。

それでは、お手元に黄色い用紙に国語の教科書4社の名前がございますので、そのなか

ら1社をお書きいただければと思います。

<委員投票、確認>

三田教育長)

只今、ご確認いただきましたとおり、国語につきましては過半数を超えるものがありましたので、これで終了とし、次に進みたいと思います。

それでは、書写の選定資料について、事務局より説明をお願いいたします。
指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

それでは、今の調査資料のご説明について、何かご質問等ございますか。宜しいですか。では、恐れ入りますが、15分程度で見ていただいて、また審議をしたいと思います宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

そろそろ宜しいでしょうか。
それでは、それぞれご発言をいただきたいと思います。
まず、白倉委員、宜しくお願いします。

白倉委員)

学習の始め、学習のまとめ、良い姿勢で鉛筆の持ち方、筆順、筆遣いや筆圧、それから字形の整え方や角の方向、角と角との間とか、角の長さ、消し方、学び方、配列、文字の大きさなど、内容的には、各社ほとんど同じで大変工夫をされています。各社とも日常生活に役立てるという視点で構成されているので、大変すばらしいと思います。

その中で、日本文教出版は、字形を整えるのに必要な十字リーダーというのがあって。その扱いや丁寧に入門を教えたり、学習の仕方が順序立ててあったりして教えやすいと思います。

また、光村図書は、文字の歴史とか、文字の誕生等について、「万葉集」とか、「源氏物語」とか、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」などの作品の文字が書いてありますが、こういう文字に興味を持っている子供が古文書を読むような学者さんになっていくのかなどと思って、大変興味を持って見ていました。

私としては、総合力とバランスの良さで、日本文教出版が良いのではないかと思います。

三田教育長)

他にいかがでしょうか。
では、北川委員、宜しくお願いいたします。

北川委員)

私は、まず初めに1年生の鉛筆の持ち方とか、書く姿勢とかを教科書でどのように取り扱っているのかいうところで見ました。それぞれに姿勢に関する何か合い言葉のよう

なものとか、鉛筆はこのような形で持ちましょうというような写真が取り上げられていて、詳しく解説されていると思いました。

光村図書では、1年生の9ページに、鉛筆を持って、その後どのように動かすかという手の動かし方がありました。手首ごと書くのではなく、手首からその先の指をどのように動かすかというところは非常に重要なところで、縦の線は人差し指を基軸にしてお腹の方に動かすとか、意外と子供たちはただ単に書くだけで、1年生のうちはまだ手先の動かし方というところまで上手く出来ていない子が非常に多いという印象を持っていますので、この手の動かし方というのは大事なポイントだと思って見ていました。

それから、次以降に、実際に文字でどのように書くかということがありますが、1年生ですので、1ページに余計な情報になるべくなくて、その文字が際立つ構成が私は良いと感じております。恐らく、小学校に入る前にたくさん文字の練習をしてきているとは思いますが、上手に書ける子は決して多くはありません。鉛筆の持ち方もみんなそれぞれに好きなように持って書いたり、書き順も正しく書けていない子が非常に多いです。そうした中で文字の書き方として、お手本をしっかりと見ながら書けるという構成になっているのは、光村図書が非常にシンプルに出来ていて良いのではないかという印象を持ちました。

あとは、各社それぞれに他教科との関連ということで言うと、理科の観察記録の書き方とか、縦書きだけではなく、横書きのところもよくまとまっておりますので、そここのころでは、高学年になって、自分の実験の様子とかを書きまとめるのには非常に役立つ作りになっていると思いました。

以上の理由で、私は光村図書を推したいと思います。

三田教育長)

では、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私は、今の北川委員のご発言と重なるところがありまして、まず1年生の文字を書くための最初の入り方は、光村図書は優れていると思いました。各家庭では1年生に入るまでに名前だけは書けるようにしようとか、このぐらいはやらせようとかして、必死になって書かせたりしていますが、書き順がめちゃくちゃであったり、形が整わないことがあったりもします。でも、就学前は当たり前で、きれいに書ける子は少ないし、書き順だってそんな正しく書けているわけではありません。ですので、1年生に入ったときに書き順に気を付けたり、曲がりとか折れとかいろいろなところに意識しながらゆっくり丁寧に教えるという部分においては、紙面上にいろいろな情報が載っていて、かつシンプルに出来ている光村図書は作りがなかなかわかりやすいように思いました。

あとは、東京書籍は、やはり「とん」「びん」「ぺた」という、習字で毛筆に入ったときに筆の進め方とか、そういった点にもちょっとしたリズム感を付けながら指導の工夫をしているというところもすごく良いと思いました。

また、他のところにも、やはり同じように「とん」「びん」「ぺた」を取り入れているところにもあって、そこは先生方が気を付けて教えているところだと思いました。

私は、先程、白倉委員のご発言にもあったように、文字を美しくということは、やはり手本の文字の美しさというのもあると思います。私は巻末にある書きぞめのところのお手本なども見させていただきましたが、文字の美しさは光村図書ではと感じました。もちろん、習字の専門家が書くわけですから、どの文字もどこが悪いとか、そういうことは決してなくて、これは好みかもしれません。私は、文字の美しさにおいては光村図書が美しいと思い、選ぶならこれにしたいと思いました。

三田教育長)

では、樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

学校に参りますと、子供たちの姿勢の悪さが気になります。先生方は一生懸命教えてくださっていますが、鉛筆の持ち方が握ってしまっている子とか、筆に至ってはなかなか厭しいところがあります。現在の教科書も本当によく出来ていて、どの会社のものを使っても出来るはずなのに、もう少し指導の中でしっかりと取り組んでいかないといけないなど感じています。

私事で恐縮ですが、私は大学生の授業で学生に教えていますが、大学生の字の汚さが目に余ります。大学の授業で黒板の板書の仕方から教えていますが、「や」の書き順が違っている学生が一人や二人ではないことに唖然としており、書写をもっともっと大事にしたいと自戒をしているところです。

そんなことを考えたときに、鉛筆の持ち方、運び方、筆はなかなか持たないかもしれないからこそ、筆の持ち方、運び方というものがわかりやすく書いてあり、空間がどのくらいあるのかまで示してあるのは、とてもありがたいと思います。私は教育出版と光村図書の2社はそういうことがよくわかりました。

それから、毛筆を見ていたときに、両方の書き方がありますが、縦の線を払うというのは意外と難しいです。縦の線を止めることは出来ますが、払うというのがとても難しく、例えば「川」の字も最後に止める書き方もあれば、すっとはらう書き方もあるようで、私ははらう練習をしていただける方がありがたいと思っています。そういう意味で、仲間の「仲」もそうですが、ちょっと日本文教出版は止めるところが多かったのも、それは少し気になりました。

あとは、「湖」などの字を見ても、バランスにそれぞれの特徴があって、どれが一番バランス良く書けるかというところを気にして見ていました。私も藤原委員のご発言にあったように、美しさとかバランスというのは大事な要素にして考えております。そういうところからも光村図書を推したいと思っています。

三田教育長)

今、特に北川委員や樋口委員や藤原委員からもあった、この筆圧については、どの社もきちんと指導されてしましますが、現場の悩みとしては、わかっているけどそれが出来ない。例えば、筆や鉛筆を持ち始めたときにクレヨンで書くときとの違いとか、そういうことを入門期に幼児教育のレベルでいろんなことを行っていますが、それがそのまま学校に持ち

込まれてくると、なかなか矯正出来ず直らない。学年が進行してもずっとそのまま修正することなく大学生になっても、大人になっても筆順が間違っていたり、正しい文字になっていなかったりします。よく間違ったような、何という字を書いているのかわからないようなものがあります。やはり入門期、最初の一步がすごく大事だということを私も感じました。そういう点では、やはり光村図書の運筆の仕方や今出来ないところを出来るようにするための工夫が入門期に記されているというのは大事な視点だと思いました。

それから、私は、最近、日本全体に筆を使った文化がだんだん減ってきて、毛筆文化が実用的に生かされることが本当に少なくなりました。かつては筆でさらさらっと書いて、達筆な字を見ることがたくさんありましたが、この頃は全部ワープロソフトになって、そういう文字の美しさや人の思いが文字に託されているというのがなかなか伝わりにくい文化に変わってきていっています。そうした中、古典的な文化を大事にしていこうということで、毛筆というものを私たちはもう一度見直していかないといけない。なので、その導入期はどんなのだろうかとということで、教科書を見させてもらいました。

東京書籍は、どの出版会社も机に毛筆の道具をこうやって出すということで、すずりから始まって、大筆、小筆、それから鉛筆となります。あとは文鎮や半紙をのせて、手本、教科書を左側に置くというパターンで出ています。このときに、ちょっと違いだけで言うと、比較的横幅の判の小さいという方がゆったり保って余裕を持って机の上に道具や筆が置けるのかなというような感じを受けました。

次に、学校図書ですが、やはり同じように姿勢とか、小筆の持ち方とか、いろいろあり、「はじめのれんしゅう」ということで、線の描きの練習をしています。そして、「二」という字からずっと入っていきますが、その後に筆のおもしろさ、筆はどうやって作られるのだろうか、墨はどうやって作るのか、そういう文化の誘いをしている、そういう違いがあります。

それから、教育出版ですが、最初に姿勢を大事にして、筆の持ち方から小筆の持ち方、それから線描きに入っていきます。書いた紙の後始末等を1ページにまとめて書いて、10ページ程で文字指導等にされているというのは特徴です。

それと、各社それぞれ鉛筆の使い方について多少扱っていますが、光村図書は何で鉛筆があるのかということの問題にして、鉛筆を使って練習をするという場面設定をしています。硬筆文字というのは実は毛筆から出来ており、1年生の子供が最初に習うのは硬筆ですので、毛筆との関連付けて見ていくときに、鉛筆での止めるときとか、入り方とか、はねとか、はらいとか、そういうものが毛筆から来ているということをしつかりと関連付けしながら学んでいくということを意識しているという点で、少し特徴ある出し方をしているように思いました。

日本文教出版は、かなり具体的に道具の置き方から始まって後始末、それからいろいろな線の書き方、穂先の向き、筆圧、それから横書きにするときの筆の運びとか、そういうことについて12ページ程を割いて丁寧に書いてから、「一」「二」という文字を実際に書いていくというような違いがございました。

毛筆の導入のときに何が一番大事なのかという、やはり毛筆の良さ、それから毛筆というのは書き順と離し難い筆の運びになっているということであるとか、日本語の言葉の文字の成り立ちをしっかりと学んでいく際の入り口になるので、そうしたことを丁寧に書いてあるところが、私の一番の選択肢としてのポイントになりました。

それから、もう一つは、最終的には硬筆であろうが毛筆であろうが、手本として書かれている文字が美しいという感覚で選ぶのではなく、感性をきちんと引き出すような表現になっているのか。表現の領域だと思いますが、そうした点で一貫して良いと感じたのは光村図書ではないかと私は感じました。

いずれにしても、これは国語と関連して大事にしていかなければなりません。ともすると国語の授業に追われて、そうした時間がきちんと確保されているのか、指導の体系化がなされているのかということに注意喚起も含めて現場はしっかりと受けとめてやっていけない部分だと思います。

それでは、教育委員の先生方におかれましては、書写の投票用紙を出していただいて、5社の中から1社ご記入いただければと思います。宜しくお願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

只今ご確認いただきましたとおり、過半数を超える社がございましたので、これで書写についての審議を終了いたします。

それでは、ここで10分程休憩をとりたいと思います。10時45分再開いたしますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

(10時35分 休憩)

(10時45分 再開)

三田教育長)

それでは、臨時会を再開いたします。

続きまして、算数の選定資料についての事務局よりの説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

では最初に選定資料についてご質問等ございましたらお願いいたします。宜しいですか。

出版社の数が多く教科書のボリュームがあるので30分程時間をとりたいと思いますが、宜しいですか。

(委員全員了承)

三田教育長)

30分ということで、宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、そろそろ時間ですが、宜しいでしょうか。

算数につきましては、先程冒頭に申し上げましたように、出版社数が5社に及ぶということと、それから学年1年生から6年生までの分冊を含めると冊数が非常に多いということで、時間を30分程とらせていただきました。

この間もいろんな学力調査等の議論をした折に、子供たちの算数のつまずきがどこから始まるんだろうかというようなことも話題になって、繰り上がり、繰り下がりから始めて、割り算、分数に至ると、だんだんその理解が正しくいというようなことからつまずきが始まると。これらをどうするかというのは、もう私ども指導の中で、いろいろ苦労を重ねてきているところでございます。

それから、そういう学習をサポートしていく上で、板書やノートがどのように活用しなきゃいけないかということも、これまでも様々な機会に議論をしてきたところでございます。さらに、子供たちが一番わかりにくいというのは、実は時計という、日常生活に必要な時計の12進法というのですか、そういう要するに通常なれている数処理の経験とちょっと離れると子供がわからなくなってくるというようなことも出ております。今度の改訂の中では、プログラミングが算数の領域だけではございませんけれども、プログラミングというのも数字処理の中で出てくるということで、それぞれ、どのようにこれらの課題に対応するのかということ、大変ボリュームも多いところかなというふうに思っておりますので、先生方の思いをお聞かせいただきながら、絞り込んでまいりたいというふうに思いますので、宜しくお願いいたします。

では、どうぞ。藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私は、算数はやはり数学的な活動のより一層の充実ということと、あとは算数で学ぶことが日常生活やいろいろな自分の身の回りのことに生かされていて深い繋がりがあるということの子供たちが認識していくことがとても大事であると思っています。子供たちが算数は楽しい、やってみたら私の周りには算数のこんな考え方が生かされているということに気づくような、そういったことがとても重要であると思っています。

また、統計的な内容の充実を図ることが極めて重要であると思っていますので、そういったところから各社の教科書を見ってみました。

東京書籍は入門時の分冊が44ページもあり、とてもわかりやすく良いことだと思いました。もちろん、他社も入門期については全部取り上げていて、色分けもされていてわかりやすくなっていますが、分冊になっていて判が大きいことから東京書籍の「新しい算数」1-1のところは使いやすいように思いました。子供たちも楽しめると思います。

それから、既習事項を取り上げている導入時のところは、どこの会社も同じ内容でした。その中で小数について少し見てみましたが、日常生活の場面とかなり結び付けて、小数はこんなふうに私たちの暮らしの中にあるということがわかりやすくなっていたのは東京書籍だったと思います。例えば体温計の中で26.5度とか、あるいは上履きの20.5セ

ンチとか、いろいろなところに小数が使われているということから導入していくところなどは、非常にわかりやすく良いと思いました。

それと、子供たちがつまづきやすい分数について、啓林館の分数の入り方は工夫が見られます。半分分けるとはどういうことなのかというところの気づきについて、例えば、ピザとか、ケーキとか、お好み焼きみなどの丸いものを分けたり、ケーキの四角いものを分けたりとか、具体的なことで半分に分けるとはこんなことかというところから入っているところに、子供たちが楽しく学べる工夫がなされていると思いました。あとは、帯でリボン分けたりするというようなことで入っていきますが、そんな工夫があるように思いました。

ですので、楽しく学べるかということと、あとは子供たちが算数を嫌いにならないように丁寧な教科書の作りになっているかということで見えますと、私は、東京書籍は見開きもすっきりしていて、余りごちゃごちゃしておらず、算数の内容としてとても良いと思いました。あれもこれも入れ過ぎると、子供たちが何か学んでいるというよりも、逆に訳がわからなくなってしまい困ってしまうのではないかと思います。

三田教育長)

藤原委員のご発言は、生活と算数、数学というのは繋がっているということと、そういう興味・関心を持たせる工夫が大事だというご指摘でした。それから、算数の中で分けるというのは、非常に重要な概念ですが、数処理の仕方として、具体的なものから対象物へ、そして数式へという、そうした手順がしっかりしているということがとても重要とのご指摘をいただいたと思います。

他にいかがでしょうか。

では、北川委員、どうぞ。

北川委員)

私も、東京書籍の1年生の分冊は、サイズが大きいことは大きいのですが、非常に薄くて、この大きさと薄さは非常に使い勝手が良いという感想を持ちました。また、これが1冊あればノートとかも必要なく進められる、そんな作りになっています。

それから、私も小数と分数について、どのような扱いをしているのかというところを各会社見てみましたところ、東京書籍では、3年生の下巻で、まだ学習していない数はあるかということで、自分が学習したことをまず思い起こそうとする問いかけの形で、小数点を使っている数字と同じ数字の並びだけれども小数点を使っていない整数だけの並びを比べてみたりしています。

一方、大日本図書は、こんな数字見たことあるかということで、まずは身近にある小数を出してきてから考えていくというような、そういう道筋が出来ていて、非常に子供たちにわかりやすいのではないかと思います。

それと、高学年に進むにしたがって、小数の掛け算とか、分数の掛け算とか、いろいろ出てきますが、それが丁寧に書かれていたのが、私は東京書籍ではないかと思いました。

あと1点、算数の内容ではありませんが、少し気になったところがあったので、申し上げ

げますが、大日本図書の1年生ですが、入門期のところの4ページ、5ページで「なかよし」「おめでとう」という人形たちがいっぱい並んでいるところがあります。ぱっと見たときに、私はとても違和感を覚えました、それが何かと思ったら、リコーダーを持つ手が全て上下逆になっています。昨日の音楽の教科書を審議したときにも私は確認しましたが、やはり右手が下で左手が上で指導されています。それと、トライアングルはもしかして右ききとか、左ききとかに配慮されているのかもしれませんが、持ち方が逆になっていました。あとは、トランペットも持ち方が左右逆の子がいるので、そのところで、せっかく丁寧に作っているのにこういうところが少しもったいない気がします。算数の内容とは違ったかもしれませんが、少し気になったので申し上げさせていただきました。

三田教育長)

左ききの子がそろっていたらこういう図になるし、右ききだったらこれと逆になります。両方まざっていたら両方あった方がいいのではないかという考え方もあります。そういう物の見方についてはいろいろあるかもしれませんが、ご指摘については傾聴に値すると思います。

三田教育長)

それでは、他にございますか。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

前から言われていますが、本区では他の科目教科に比べて理科と社会に少し問題があります。レベル的には結構高いのですが、思考力に問題があるのではないかとされています。国語の読解力が一番の問題があると言われていますが、これは単に早とちりです。よく読めば、数学的な感覚では大体同じです。そういうことがわかるような教科書が良いかと思っています。

そこで、私も1年生の数の概念からいろいろと読ませてもらいましたが、どの出版社もきちんと数の概念を順序立って、少しずつ覚えさせていくやり方を取っています。

その中で特に、割り算のところでは3桁の数字を一桁で割るようなときに、例えば256を4で割るようなときに、2が4で割れないから一つ位を下げるということを東京書籍はよく説明が来ています。他のところもそのような説明はしていますが、少し説明不足です。あとはアドバイスが多過ぎて、少し困るというようなところもあります。

それから分数とかそういうのでも、学習の流れなどを丁寧に説明しているのは東京書籍ではないかと思いました。

今、豊島区ではノート指導ということをして1年生から行っています。各小学校でノートの指導に大変工夫をされていて、すばらしいと思います。ノート指導で自分の考えの変容を見ていくという点では、各教科書ともかなり力を入れています。

それと、啓林館の「わくわく算数」という中で、何故、算数を学ぶかというようなことが書いてあります。例えば、音楽にも数学が使われていて、心地よく調和するには決まりがあり、算数が関係している。それから、料理したり、お菓子を作ったりすることにも算

数とか、数学が必要であるというようなことが書いてあります。

また、教育出版では、「学びの手引き」の裏表紙に、算数の考え方とか、コンパスの使い方とか、いろいろここに書いてあって、非常に興味深いところがありました。

ということで、いろいろなことを総合的に考えると、皆さんもそうですが、算数の授業の流れを上手く作っている東京書籍がよいと思います。

三田教育長)

では、樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

算数・数学についても、今日の学力調査の結果にも出ていましたが、毎年同じで、その根拠をしっかりと捉えられているのかどうかというところだと思います。その根拠を捉えたことを自分の言葉で説明する力、言語能力と国語との関わりが非常に重要でありまして、数の計算はある程度出来ても、それを正しい根拠で説明するというところが難しいのだらうと思います。その観点から各社の教科書を見せてもらうと、論理的に筋道立ててこうやって考えたかどうかという作りに全部なっています。それが余りにもヒントが多いのではないかと私は逆に思っていて、イラストの人物たちが全部語ってくれているから、根拠とか筋道とかをたどっていけば、きちんと頭の中に入るのにと思いつつも、そのあたりが課題でもあると思いつつ見えていました。

もう一つは、既習事項をいかに活用していくかというスパイラルで算数はとりわけ伸びていくので、既習事項との絡みも全社しっかりと捉えられているということがよくわかりますが、そこをきちんと子供目線でわかりやすくというところを私はしっかりと捉えたいと思いました。

また、先程来出ておりますノートの指導についても、軽重はかなりありますが、教育出版の友達のノートの良さを発見するという視点がおもしろいと思えました。

それから、算数は今言ったようにスパイラルで伸びていくので、自分がどこでつまづいたのかがわかるような教科書だと、そこに立ち戻ればよいというところを考えると、東京書籍の作り方は自学でも出来るような感じですので、非常にそこはわかりやすいので、私も東京書籍が良いと思えました。

三田教育長)

今の樋口委員のご発言の中にもありましたが、教材として全部答えを出すのがいいのか、もう少しシンプルにして考える場面を焦点化して質問するのがよいのか、本来、教科書はそういうものだったと思います。よって、完璧な最高教材で勝負するのか、思考力をそそるような最適教材で勝負するのかという在り方が、重要です。全体としてページが厚くなったり、本の形が大きくなったりして、どんどん活字が書き込まれてしまっています。子供たちが問いをもち選択してじっくりと学び方のトレーニングする余地が少し窮屈になっているのではないかという印象を私自身も持ちました。私たちはこれをどう使っていくかという問題になろうかと思っておりますので、そうした点を現場でも十分議論を巻き起こしていかないといけないと思っております。

私は、そうした視点と新しく登場してきたプログラミング教育をどうしていくか。実は私が都立教育研究所で学んでいたときに、LOGOという、プログラムソフトがありました。ちょうど24ビットになったときのプログラムシステムで、亀が前に3歩進んで左に4歩行って、後ろに2歩下がったらどんな形、線になるかということコンピュータに命令して、作図するというソフトです。ところが、その当時は、まだプログラミングの発想で行こうという考え方はごく少数で、どちらかというと活用を視点に、思考力を促すという考え方が日本全体が遅れを取っていました。AIの時代を迎えて、コンピュータに人間が使われるようではだめだという反省に立ってプログラミングというものが強調させてきたわけです。以前からそういう発想や考え方というのはあって、今回、改めて登場してきているということで、それをどう扱っているかという点で、私も全社見せてもらいました。

東京書籍では、5年生の上巻134ページから135ページに正多角形を各手順で考えさせ、それから6年生ではアルゴリズムを取り入れて、その活用をするという関連性を持たせながら、高学年でそうした学習をしています。私が感動したのは、他社もみんな取り上げていますが、東京書籍は正多角形を図形で説明しています。これは理屈ではなくて、こうやってこうするとこういう形になるという見える化が出来ているのはとても良いと思います。

それから、ノートの記入例が1時間ごとの流れでたびたび出てくるということから、先程来、豊島区もノート指導が完璧に出来ているのかどうなのかという質問もありましたが、かなり変わってきたと思っています。授業によっては、ワークシートにお任せで、もっと算数的な思考力を引き出すような授業を展開してもらいたいという点では、こうしたノートというのは非常に参考になると思いました。

大日本図書は、各学年でプログラミングを導入しています。1年生のときからプログラミング的な思考が出来る子供を育てようという会社の考えがよく表れていて良いと思いました。

あと感心したのは、誤答例をわざわざ出して、正しく直すという活動場面を取り入れている点です。算数・数学というのは、正答例から学ぶこともたくさんありますが、誤答例からいろいろな発想が出てきて、それを改善するために発展してきたという側面も持っています。これは学問の世界は全てそうだと思います。間違っただけがきっかけで意外な発見、発明をするということもあります。間違っただけがだめなことと子供たちが植え付けられているとしたら、失敗も大事な経験であるという発想に変えていくという点で、そういう視点がなされていることは良いと思いました。

学校図書は、ノート名人になろうということで、今のノートの話の中でもよく取り上げられておりました。また、プログラミングについては、5年生で多角形、6年生では、ロボ君に量や数を小さい方から順に並べさせようという、これはいろいろな生活場面で使われることですが、そのようなことを取り上げて、プログラミングの教材化をしていました。

教育出版は、5年、6年で正多角形、正六角形を書いていこうとか、それから6年生で大量のデータをどう活用していくかということで、プログラミングの発想、活用するとい

う取り組みがされています。

啓林館は、プログラミングについて、5年生で算数ラボという、これは5、6年生で正三角形から正六角形のプログラミングについて触れています。それから、大変おもしろかったのは、6年生で2ページ割いていますが、巻末にある乱数を使って、それを1から始まる数字で並べるとか、それを斜めに目線を変えるとどういう数字の並びになるかという、そういうプログラミングの発想をよく活用出来るような仕組みとなっていました。

日本文教出版は、5年生で正多角形のプログラミングということを取り入れています。自分で伝える、みんなで伝え合うということで、算数的な発想というのは自分での解決と、それから共同で解決するという、そういう問題を解決するにあたって昔から培ってきた問題解決の一つの学習スタイルを確立している教科だと思います。そういう点で、これを繰り返してやっていこうとすることで、学び方の定着に役立つのではないかと感じております。

プログラミングの点で言うと、見える化をすることで、難しい、発想を間違えるとプログラミングの意図が台なしになってしまうのではないかとという危惧と心配を少ししています。これは、おもしろい、やってみたいと子供に火が付いたりすると、次の改訂のときには考え方とかページ数とかがもっと増えてきます。それから日常生活でも、子供たちがもっと算数を好きになるような流れに変わってくるのではないかとということで、英語と同時に、これは導入の失敗が出来ないということから、私は見える化をきちっと位置付けて取り上げている出版社が使い勝手が良いのではないかと、そういうことを側面から感じました。

では、お手元にウグイス色の投票用紙でございますが、算数は6社、大変力作ぞろいではありますが、この中から1社選んでいただければと思います。宜しくお願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、只今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで算数についての審議終了といたします。

私の時計で今、11時57分になったところでございますが、午後の審議は予定どおり13時再開ということで、残る保健体育、理科、道徳について選定を行いたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

では、休憩に入ります。

(12時57分 休憩)

(13時00分 再開)

事務局)

委員の皆様全員おそろいでございます。

午後からの傍聴希望者が1名ございます。

なお、学校施設課長ですが、公務のため、途中退席させていただきます。どうぞ宜しく

お願いいたします。

三田教育長)

承知しました。

それでは、傍聴希望者については、午前を引き続いて承認いたしたいと思いますが、宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、教育委員会を再開いたします。

まず、体育の選定資料について、事務局より説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

選定資料についての説明が終わりましたが、説明に対するご質問等ございますか。

私から一ついいですか。他の会社に比べて、2ページの大日本図書は内容の選択が極端に多く、逆に光文書院は構成上の工夫が多いように感じますが、何か特段着目したいようなことがあるかないのか、そのあたりをお聞きしたいと思います。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

今回、内容を調査するに当たっては、今回の学習指導要領で求められている「主体的で対話的な深い学び」という視点から全教科を調査いたしました。その視点から見たところでございますので、ページの分量に関わらず、また単元の設定に関わらず、その視点でどのような内容が示されているかということで資料をまとめ、ご提示をさせていただきました。

三田教育長)

ということは、特色というような捉え方でいいのでしょうか。

指導課長)

そのとおりでございます。

三田教育長)

了解しました。その他に委員の先生方からありますか。

なければ、15分程時間を取りますので、その後、委員の先生方からご意見を頂戴したいと思います。どうぞお願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、そろそろ時間ですが宜しいですか。

それでは、ご意見を頂戴したいと思います。本区でいろいろと取り組んでいる条例に位置付けて、がん教育とか、歯と口腔の衛生とか、あるいは骨密度測定ということで、健康教育については、本区でかなり力を入れてやってきているところでございますが。そうし

た角度からも、是非、地域に根差し実態に基づいた資料として、どれが教材として良いのかという角度からご意見頂を戴出来れば大変ありがたいと思います。いかがでしょうか。自由に意見を言っていただければと思います。

では、白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

昨日も今日も、昼食を食べた後にトイレに行くと、職員の方が歯を磨いているのを見ると、豊島区ではがんと歯と口腔衛生の条例があり、それから骨密度の測定などもやっていて、それらが浸透していることが伺えます。それで、義務教育の9年間の間にがん教育や歯と口腔というようなことを学んで、がんとか虫歯も早期発見、早期治療で早期に対応すれば病気は防げるし、それから病気とか歯が悪くなるとお金がかけるので、お金をかけないようにするためにはしっかりと予防することは非常に良いことだと思いますが、このあたりは各社非常によく扱われています。

中学卒業後に高校、大学、社会人になっても、その習慣が身に付けばそのまま出来ます。今、歯科の間では、どっちかという歯周病の予防に今重きを置いています。先程、トイレに行って若い男性の職員が歯を磨いているのを見て、この広がりも豊島区での保健活動が進んだ一助ではないかと思っております。

それから、近年、違法ドラッグの問題ですが、豊島区には池袋という繁華街があるから何でもない家庭に広がっていく危険性があるので、違法ドラッグがいかにか体をむしばんでいくということを教える教育を徹底していただきたいと思いますが、そうした喫煙、飲酒、違法ドラッグなども各社同じように扱っております。

それから、けがとか、自分の体は自分で守らないといけないという教育を行っていく上で、東京書籍では、自分の体を守るには自分だということを肝に銘じてと書いてあるので、こういうのは良いと思いました。

それと、今、強く思うことは、パソコンやスマートフォンが非常に普及しており、私たちの生活になくってはならないものになっています。これが心や体の健康に影響しており、体だけではなくて、学力にも非常に影響しています。きちんと時間を決めて、その時間になったら止めるとか、そういうことを家庭でしていかないと学力は下がるし、学校行っても眠くてけがにも遭う。そういうインターネットのことをどの会社も扱っていて、大変喜ばしく思います。

そうしたことを踏まえて総合的に見て見ると、東京書籍と学研みらいはバランスが取れていて良いのではないかと思います。皆さんの意見を参考にして最終的な判断を下したいと思っております。

三田教育長)

他にございますか。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

私も豊島区で取り組んでいるインターナショナルセーフスクールの絡みとかも考えなが

ら教科書を見てみました。ISSでは、けがの発生とそれの対処法についてデータから子供たちが自主的に考える、主体的に考えるという方法をとっておりますので、データを分析する上で、どのような手順で行うかとか、また学校内での危険だと思うところ、地域の危険だと思うところ、そういうポイントがあるということ、それぞれの会社で順序立てて追っていけるようになっていたと思います。

基本的に考えると、私も東京書籍と学研教育みらいの流れが良いのではと思いました。

あとは、心の成長とともに、性のこともそれぞれ取り上げておりますが、例えば、光文書院では、3、4年生の33ページで、はっきりとした言葉ではありませんが、性についての悩みの中で、ただ単に異性とかではなくて、体の性と心の性が違う気がする人があるというような文章が出てきています。今は、異性に対する関心だけではなくて、性の不一致とか、そういう面も、小さくても子供たちに起きていることであるということ、このところで取り上げていただいているのは非常に重要なことではないかと思っております。

あとは、先程話にありましたパソコンやタブレット等を使って起こる健康の被害ということで、目の健康ということについても学研教育みらいや大日本図書、あとは光文書院等でも取り上げられていました。最近、子供たちの視力が本当に落ちていきますので、先程の国語での姿勢の問題とも合わせて非常に大事なところではないかと思われました。

いろいろ鑑みて、私は、東京書籍か学研教育みらいというところを挙げさせていただきたいと思います。

三田教育長)

では、他にございますか。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

体育、とりわけ保健ですが、心と体を一体として捉えて、子供たちが将来にわたって健康的な生活を送るといった意識を育てていくことがとても重要だと思います。そういった意味で、学研教育未みらいは、最初のページで健康とはどういうことかに触れており、子供たちが未来に向かっていく最初の入り口のところで、健康についてこれまで余り考えてみたことがなかったが、心も体も両方の健康であることは大事だということに気づかせていく良い道筋ではないかと思われました。

また、文教社では、健康の芽を育てようとか、健康探しの旅とか、そういった言葉で健康について考えさせようとしていました。

一方で、どの教科書も、問題解決的な流れをとりようとしている、その形をとりようとしていることはわかりましたが、大事なことは紙面がわかりやすく、子供たちにすっと落ちるような、そういう書きぶりをしていくことが大事ではないかと思われました。

私は、とりわけ、子供たちにすっと落ちるといったあたりを性教育というところに着目して見てみました。3、4年生の教科書で性教育について扱っていて、5、6年生になると異性との関わりということを扱っています。3、4年生で学ぶ体の変化について東京書

籍と学研教育みらいは、女子は月経、男子は射精とか、精通とかについて割とストレートに取り上げていて、どちらかという子供たちはそうしたことに何かどきどきして人には言えないし、どこで学ばばいいのかというようなことが、この教科書の中で、きちんと筋道を立てて説明してあるので、こういうことかとか何か納得出来る、そういう教科書ではないかと思います。

普段、友達とはあんまりこういう話をしないが、授業の中でこれを取り上げることによって、体の変化について、そうかそうか、そういえばそうだよねと、そう思えるような内容になっていることが私は大事であると思っています。

また、性の扱いについては、光文書院は、新しい命の誕生というところから入っているんですね。妊娠しているお母さんのおなかの赤ちゃんの図を示して、じゃあ、赤ちゃんは、どこからというふうなことからして、卵子とか精子とか、それは命なのかという扱いをしていますね。ですから、そういう正しい知識をきちっと身に付けることは、とても重要だというふうに思います。私は、学研教育みらいの扱いが、きっちりわかりやすく出来ていると思いました。

三田教育長)

それでは、樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

どの教科書も自分の生活経験と結び付けて、自分の体のこと、安全のこと、それから自分だけではなくて自分を取り巻く多くの人や地域など、とてもよく出来ていると思います。

今、藤原委員ご指摘のとおり、私も、3、4年生の思春期のところについては、こうやって生まれてきたが故にということまでとリンクさせるのはとても良いことだと思い、光文書院や学研教育みらい、東京書籍は、そういう視点になっていたように思います。

それから、紙面構成の上でぱっと見てわかるのは学研教育みらいではないかと思っただけで、見開きでつかむ、考える、調べるところと、まとめる、深めるというところが見開きで全部完了しています。その後、必要ならば、それに関わる資料もきちんと載せています。悩みなどというところでは、いじめの問題についても扱っており、よくいじめは心のけがというような表現をする学校もありますが、そうしたところで、子供の思考をわかりやすく論理立てるには、こちらがいいのではないかと思います。

三田教育長)

今、教育委員の皆さんにご指摘いただいたことと重ならないようにということで、私から一つだけ、紙面構成を見たのですが、ページによっては目線が右へ行ったり、上へ行ったり、下へ行ったりと一貫性がないという教科書が圧倒的に多い中で、学研教育みらいの本は上から下、それから左から右と、一貫しています。それで見開きでもあります。

もう一つは、議会でも問題になっていますが、外国人児童・生徒、それから発達障害を抱えている子供も一緒に学習する機会が当たり前になってきている中で、ルビを振ってほしいと思います。通常、ルビというのはどこの会社も学年で習っていない字はルビを振っていますが、学研教育みらいは高学年にもきちんとルビを振っています。そういう意味に

において、そういう子供たちが一緒になって学習するという点で非常にユニバーサルデザイン的趣旨をよく踏まえていて、子供たちも一緒になって学習しやすい教材としては学研教育みらいがやや優れているのではないかと私も感じました。

また、本区のISSとか、歯と口腔の衛生とか、そうした取り組み関連して、生活習慣の改善というか、生活習慣病の予防という点においては、どの会社もよく編集されておりますし、私どもにとっても、子供たちにとって大変追い風になる教材ではないかと思いました。

それから、性の問題についても議会の中でも話題になっており、いろいろな角度から踏み込んで考えていかなければならないし、そういう時代を迎えていると思います。子供たちがこうした問題についてしっかりと議論したり、考えたりして、自分の問題として捉えていくという点においても、学研教育みらいの表現がいいのではないかと感じております。

では、時間が来ましたので、投票をお願いしたいと思います。ピンクの【保健】という用紙に5社の中から1社選んでいただいて、投票をお願いしたいと思います。

<委員投票、確認>

三田教育長)

只今ご確認いただきましたとおり、過半数を超えるものがございましたので、これで体育についての審議は終了いたします。

それでは、続きまして、理科の選定資料についての事務局より説明をお願いいたします。指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

それでは、5社の選定資料についての説明が終わりましたが、何かこれについて質問ございますか。宜しいですか。

では、早速お手にとって見ていただきたいと思いますが、数が多いので15分程取りたいと思いますが、宜しいですか。お願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

宜しいですか。それでは、ご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

理科は、子供たちの知的好奇心を刺激して、知りたいとか、どうしてだろうとか、そうした探求心を育てていくことがとても大事な教科だと思っております。そのためには、自然に親しむ気持ちとか、あるいは、いろいろ疑問に思ったことに見通しを持って追求していく観察実験だとか、その結果を整理したりしていく問題解決的な学習ということが大事だと思っております。

そのことについては、どの教科書も十分満たしていると思えました。しかし、私の中で

私も子供だったらこの教科書を使いたいというのが一つありまして、それは学校図書です。それは何故かと言いますと、皆さん、この表紙を見てください。いずれも科学者が3人ずつ載っていますが、この方たちの裏表紙には科学者の言葉というのが書いてあって、それがまたすばらしく良い言葉であります。

この3年生の教科書にある牧野富太郎の言葉は「雑草という植物はない。その一つ一つに長い物語が込められています。」と書いてあります。表紙をめくりますと、自然を見詰め心をいざなうようないろいろな文章があって、3年生で学ぶこと、そして科学の芽を育てようというようなことで、その次にある写真とかもものすごく感じの良いもので、「ねえ聞いて、こんな生き物を見つけたよ」ということで、子供たちが本当に学びたいという気持ちからスタートして、学習がどんどん進んでいく仕組みになっています。

また、見開きで「何々を比べると、どんな違いがあるのでしょうか」というような一つの問題があって、それを追求していく形になっています。紙面も非常にわかりやすいし、使われている写真もとてもすばらしい写真ばかりです。3年生では、トーマス・エジソン、ファールブル、牧野富太郎、そして、6年生は、ファラデー、マリ・キュリー、湯川秀樹ということで、日本の科学者と外国の科学者を組み合わせて、日本も世界も、そして自然を見詰めたり、宇宙を見詰めたりという、そういったことがわくわくしながら学べる教科書ではないかと思った次第です。

もちろん、東京書籍も何でという言葉に大事にしながら追求していますし、教育出版も生命の故郷、地球ということで、いろいろな科学の芽を育てようとしている、そういう教科書だと思います。私の中では学校図書の教科書にぞっこん惚れたという感じです。

三田教育長)

人の言葉は、心を動かします。言葉は言霊と言われるぐらい、そういう感動があったということだと思います。

他にいかがでしょうか。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

今の藤原委員のぞっこんという言葉をお借りすると、私は表紙を開いたときにあっと思ったのが大日本図書で、はてな？という、これが子供心をくすぐり良いのではないかと思います。

どこの会社も、表紙だけでなく内側とか、裏表紙も使って、地球全体のおもしろいところや、科学的におもしろいところなどの写真をたくさん載せているという印象を持ちました。

また、少し視点が違いますが、教育出版では、理科の実験をするには安全第一ということで、裏表紙に必ず安全に特化した手引というのを載せているのは非常に大事なことだと思います。

私は、流れを見ていったときに、とても見やすいと思ったのが大日本図書の教科書でした。あとは、中学校への繋がりとか、他の教科との繋がりとかを考えると、啓林館の教科

書も非常に良いと思ひまして、特に巻末に付いている「フクロウ博士の資料室」、これだと「算数のまど」になりますが、理科と算数を繋げるといふところでの「算数のまど」といふのはとても使い勝手の良いところだと思ひます。

どの出版社がよいか、まだ少し迷っているところではあります。

三田教育長)

北川委員の後半のご指摘のところは、新学習指導要領でもクロスカリキュラムという形で各教科との関わりということを大事にしようという、そういう一つの表現を抽出したものだと思ひました。

他にいかがでしょうか。

では、白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

今、教科書をずっと見ていたら、理科というものは学習するものがたくさんあり大変びっくりしました。私は、生命、体のこととかが書いてあるところを見ましたが、どの出版社も専門的に結構細かいことまで書いてあり、同じようなものになっております。

それから、理科的な考え方ということで、比較とか、関連付けとか、それから条件を整理して実験するとか、考察をするとか、そうしたいろいろなことについて子供たちは学びますが、例えば、豆電池とか、それから振り子、それから空気と水の関係とか、それから物が燃えたときどうなるかというようなことは、各社同じように扱っていて、流れがあります。

ノートの書き方とか、記録カードの書き方、図書館やパソコンで調べよう、それから理科教室の使い方、安全の手引、算数との関連事項などについては、これも各社一緒に甲乙付けがたいです。

そんな中、東京書籍は、どういう場合に、どんな不思議に出会うかというようなことが書いてあって、導入部分で各学年の狙いが明確化になっているということもあって、丁寧で見やすく、内容もいいと思ひます。ただ、少し型にはまっていて、授業でわくわくどきどき感がないという部分で考えさせられるところがあります。

それで、5社のうち学校図書、大日本図書、それと東京書籍の3社は本当に内容的にもよく出来ています。その中でも特に気づきを大切にしてお子たちの興味・関心を引き出す学校図書が良いのではないかと思ひますが、皆さんの意見を参考にして選びたいと思ひます。

三田教育長)

では、樋口委員、お願いします。

樋口委員)

理科は、「なぜ」という疑問を自分の中に持てるかどうかということがポイントだと思ひます。新しい学習指導要領で強調されているのは、まず「なぜ」という問題を発見し、それに対して自分なりに予想や見通しを持って観察・実験をし、その結果をもとにして自分なりに考えて、最終的にまとめとか、結論に至っていくという、そういう流れをどの出版社も大切になさっていますが、子供の目線から見て一番わかりやすいのは、私は大日本

図書ではないかと思います。

それから、表紙裏のところはどの出版社も工夫をされていますが、理科とは一番遠いような国語の山部赤人の「田子の浦」が出てくるというのは、富士山の光景を見るだけでも効果的にこうやっていかないといけないということも感じます。私は、やはり理科的な、科学的な物の見方、考え方というところと、問題解決的というところをしっかりと押さえている大日本図書がよいのではないかと思いました。

三田教育長)

私は、理数の重視ということが相変わらず言われている流れの中で、子供たちが自然との関わりの中で科学的な見方や考え方、理科的な物の見方や考え方をどのようにしていったら生み出されてくるのだろうかという問いを持ちながら、先程来言われているようなことが具体的に教科書を通してどのように追求出来るか、アクティブラーニングと言われている問いを持ち続けて調べていくエネルギーをどのように生み出していくのかというのが問われていると思っていて、そういう視点から拝見しました。

それと同時に、自分との関わり、それから社会や生活との関わりということをどんなふうに見ているのか。実験とか、体験とかということを重視している教科の一つでありますので、そうしたものが正確に出来るような対策が講じられているかという、そういう両面から拝見しました。

3年生の「風のはたらきとゴムのはたらき」単元を見ましたら、東京書籍は見た瞬間に字が多く、吹き出しがいっぱいあるという印象を持ちました。

大日本図書は、体育館でゴムの力を使って車を動かして誰が一番先にゴールするかを決める。ゴムの力を先に学んで、その後に風と力に移ります。

学校図書は、風車で回して、風の強さで風車どんなふう回るかを学んでいます。その後、ゴムの動力について、単元を分けて説明しています。

教育出版でおもしろいと思ったのは写真に迫力があり、今は余り見られませんが、茨城県霞ヶ浦で昔、漁に使っていた帆引き船の写真が載っています。それから、これはよく子供たちが目にする鯉のぼりの写真も載っていて、こういうものが風の力で動いているということを見ながら、風の力について学んでいます。やはり、ゴムと力と分けて単元としています。

私がすごいと思ったのは啓林館で、風の力と関連付けてヨットの迫力がすごいです。海辺とかでよく見ていると思いますが、オリンピックがあるのでヨットにみんな関心を持つと思います。学習問題がすっきりあって、その後、風の働きを考えていく手だてになっています。私だったら2時間ぐらい議論出来ると思います。自然を体で感じて、そこからじっくり物事を引き出していくという手法が上手く取れていると思います。他の単元と比べたら、啓林館は単元の導入が工夫されていて良いと感じました。

それから、もう一つは安全について6年生の単元で見させてもらいました。東京書籍は、理科の実験での道具の使い方ということで、特に安全部分の配慮があって、発表の仕方とか、学習の仕方と一緒に道具の使い方も紹介されているという、そういう作りにな

っています。

大日本図書は、理科室の決まり、やってはいけないことということで、理科室全体を鳥瞰しながら、注意事項ということで個別に課題を挙げています。なかなか大事な点を押さえていて、遠くから見て近くからも見てと両面から捉えていて優れていると思いました。

学校図書は、理科室の使い方ということで、整理してコンパクトにまとめているのと、あとは顕微鏡など道具が精密な場合にきちんとチェックしながら使えるようにするという点で、実験のときに役に立ついろんな整理の仕方も触れていて、安全対策を含めて書かれているという点で良いと思いました。

教育出版で特に感心したのは、水溶液の取り扱いということで、ゴーグルをかけるとか、目に入ったり、手に付いたときにはどうするのかとか、それから絶対にやってはいけないことは何かとか、そういった薬品関係の取り扱いについて注意深く丁寧に書かれていて大変良いと思いました。

啓林館も理科室のことということで、服装も含めて、髪の毛の確認だとか、机上の整理とか、器具の整理とか、他に触れていないようなことまで入念に書かれています。

そのようなことで言うと、どの出版社も安全対策にしっかり触れていて、今の子供たちの弱点と言われている実験、体験を通して科学的な思考、判断をしていくということについて注意を払われています。私は全体として見たときに、吹き出したくさんあるよりも余分なことを余り書いていないもの、クラスの子供たちが教材と向き合って素晴らしい発言が出てくる、そういった学習が出来るような理科の授業を展開してほしいと思いますので、そういうことで言うと、シンプルに重点化、焦点化した教材で勝負する啓林館は非常に優れていると思いました。

どの出版社も本当に工夫されていて、どの教科書を使っても今の子供たちの期待に応えられる学習が展開できるのではないかと思います。一社に絞らないといけませんので、投票用紙にご記入いただきたいと思います。黄色い用紙になりますが、5社から1社、投票をお願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

只今ご確認いただいた通り、過半数を超えるものがございませんでしたので、再審議を行いたいと思います。今配られた新たな投票用紙に大日本図書、学校図書、新興出版社啓林館の3社の中から一つ選んでいただくということで、意見のある方はどうぞ。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

委員5人で投票が3社ですので、過半数を超えないということは、2票・2票・1票だと思っています。

三田教育長)

そのとおりです

白倉委員)

上位2社から選ばないのですか。

三田教育長)

それで結構だと思います。投票数の多かった学校図書と大日本図書のどちらかを選んでいただくということで、議論は宜しいですか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、投票を宜しくお願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

再度のご確認をいただきましたが、今回は過半数を超えるものがありましたので、これで理科についての審議を終了いたします。

それでは、10分程、休憩時間を取りたいと思います。

再開を2時40分としたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

(14時30分 休憩)

(14時40分 再開)

三田教育長)

それでは、只今から、教育委員会を再開いたします。

今、庁内放送で光化学スモッグ注意報が発令されたという放送がありましたので、この会場にいる皆さんもお帰りの際には十分ご注意くださいと思います。

それでは、残り最後になりますが、道徳の教科用図書について説明をお願いいたします。指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

会社数が多くてボリュームがありますが、先に少し質問させていただきたいのですが、4ページの光村出版社と、それから7ページの学研教育みらい社ですが、構成上の工夫にいずれも異なる内容の2時間扱いのユニットが用意されていると書かれていますが、何年生の何ページにそういうのがあるかということが調査用紙には記載がないので、わかれば教えていただきたいと思います。学年とページ数を教えてください。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

光村図書でございますが、5年生の2ページ、3ページ目次の欄を開いていただきますと、例えば帯がかかっている3の「あいさつって」の18ページに、22ページのコラム「インターネット上のマナー」が付いております。

三田教育長)

「挨拶」というものと「インターネット上のマナー」というというのが2時間続きということですか。

指導課長)

そういうことが出来るように工夫がされているということです。

三田教育長)

単独で出来るということなのか、それとも挨拶とセットで1時間、1時間行うのか。

指導課長)

もちろん、単独で行うことも可能ですし、コラムで付いている情報「インターネット上のマナー」と連続して2時間続きで道徳の授業で取り扱うことも出来る工夫がなされています。

三田教育長)

わかりました。

指導課長)

光村図書については同様に、目次のところで帯がけでなっているものはそういうことが可能になっています。

三田教育長)

これは選択ということですか。

指導課長)

そういうことです。

三田教育長)

それぞれの学級で担任の判断で選択していくということですね。

指導課長)

そのとおりです。

三田教育長)

実態に応じてということですね。

指導課長)

そのとおりです。

また、光文書院も同じような考え方でございまして、5年生の表紙をめくっていただくと目次がございまして、黄色い帯がかかっている内容、例えば35ページから40ページがそれに該当します。

三田教育長)

目次を見れば3カ所ありますね。

指導課長)

このような形で、担任が道徳の授業を展開するに当たって、単独で教材を扱うことも出来ますし、連続で取り上げてユニットで行うことも出来るような工夫がなされています。

三田教育長)

わかりました。

他に委員の先生方から何かご質問等ございますか。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

道徳の教科用図書は、平成29年8月に採択され、実質1年ちょっとしか使っていません。これをもう一回採択するということについて、調査委員会から何らかの意見はありましたか。

三田教育長)

指導課長、どうぞ。

指導課長)

道徳が教科化され、各学校で道徳の授業が充実していく中で教科書の重要性を非常に実感しているところです。教科書を活用しながら様々な教材を使って授業をするということに関しては非常に効果的であり、子供たちの道徳的な興味をますます引き出していくという意味から価値のあるものを採択してもらいたいというような話は出ております。

現在、教科書を使った授業は非常にやりやすいというような報告を現場の調査委員から受けてございます。

三田教育長)

昨年度採択した教科書がいろいろな問題があって非常に使いにくいとか、やってみただけで上手くいかない等の否定的な意見と、非常に役に立っていて有効であるというような肯定的な意見があると思います。実際に使用する教科書は私たちが決めることですので、1年間だけ前倒しで使用している教科書について調査部会の先生方から出た意見があるようでしたら、出来れば参考に聞かせていただきたいと思います。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

特に問題はないということで、今現在使っている教科書、非常に効果的である。特に発問が豊富で、先生方は授業がやりやすいというような意見をもらっております。

三田教育長)

そういうことで宜しいですか。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

光村図書の新しい教科書「きみが いちばん ひかるとき」を見させてもらいましたが、ページ数が196ページから204ページに増えていますが、文字も大きくなって大変見やすくなっています。項目の順序が入れ替わっているところが2、3あり、挨拶の項目が早く出てきて、「すれちがい」のという項目が後に出てくるというぐらいで、内容的には前回の教科書とほとんど同じなので、不都合なことがないなら私は光村図書にしたいと思います。

三田教育長)

白倉委員から前回の教科書で特段不都合がなければ同一の出版社でもよいのではないかとのご提案ですが、いかがでしょうか。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

今回、いろいろな微調整は各社していると思います、たくさん。それをやはり確認する必要はあると思います。どれを選ぶかはそれぞれの判断なので、全部見させてもらいたいと思います。

三田教育長)

そういう意見もございますので、予定通りしっかり審議の上で結論を出したいと思いますが、宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、確認の時間がかなり必要かと思いますが、20分程時間を取りますので、教科書をご覧いただいてからご意見を頂戴したいと思います。

<教科書閲覧>

三田教育長)

そろそろ時間ですが、宜しいでしょうか。

既に白倉委員からご意見がございましたが、それらも参考にご意見をいただき取りまとめたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

それでは、発言を求めたいと思います。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

全社の内容を確認しましたところ、前回は話題に上がりましたが、道徳ノートが付いている会社と、付いていない会社がありました。豊島区ではノートづくりということを非常に大事にしていますので、私は引き続きノートがない教材でも十分ではないかと考えます。

光村図書は、内容がとても見やすくなっています。また、考えよう、話し合おうというようなところが流れの最後に来ています。全て縦書きで出来ているところは、非常に見やすいと思いました。他の教科書会社は、本文があって、下に横書きで発問があったりとかして、縦書き、横書き、いろいろあるところもありますが、光村図書の場合、比較的に見やすく、また発問もわかりやすいのではないかと思いますので、今のところ引き続き光村図書を使うことに異論はございません。

三田教育長)

では、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私も光村図書を使うことについて異論はございません。とりわけ、各社のユニットのところを確認させていただきましたが、例えば6年生のところではじめ問題を扱っていますが、光村図書は42ページから「泣き虫」、49ページから「この胸の痛みを」、そして54ページから「いじめにどう向き合うか」というように、3つでユニットになっています。6年生で心ないいじめを行うような事態が本当にあるかどうかわかりませんが、実際そういう状況があったときに、子供たちに畳みかけるように考えさせる効果がユニットに

はあるではないかと思っています。

もちろん、各学年にちりばめて学期ごとに1回ずつとか、あるいは、少し時期をずらして少しずつ少しずつ浸透させていくということもあるでしょうが、こういう焦点化の仕方もあるのではないかと思います。

そして、いじめにどう向き合うかということが終わった後に、友情を題材した単元「ロレンゾの友達」が来て、それが終わると「命の旅」というふうに、何かその流れの中にストーリーを感じます。ですので、そういった物語というか、その教材の流れが基準にもなっているように思いました。

ユニットでは、光文書院もいじめ問題を扱ったところで、「森川君のうわさ」と「グループ外し」というのがユニットであります。これも本当に心打つ内容になっていると思いました。日本文教出版にも「ほんとうのことだけど」と「それじゃ、ダメじゃん」というユニットもあって、やはり子供たちの心を打つというか、考えさせるものというのは、いじめ問題だけではなくて、ユニットの持つ一つの効果ではないかと感じた次第です。

そういったことを踏まえると、私は光村図書を選びたいと思っています。

三田教育長)

白倉委員、先程の意見で宜しいですか。

白倉委員)

はい。

三田教育長)

では、樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

道徳が教科化になってから各学校の先生方の道徳科への取り組みが一層充実してきているのではないかと感じているところです。どの会社もわずか2年前ですが、内容に工夫や改善を重ねて見やすくしたり、いろいろと発問を考えたりというところで、相当のご努力を感じ取ることができます。

今回、道徳が教科化になったことの一つとして、先生方が子供たちの心を育てることに真剣に向き合っていたきたいという国からのメッセージを大きく捉えたところです。そうしたときに、発問が何よりも大事であろうと思います。道徳科が今までも得意でない先生方がこの教材を子供たちに提示して、教材と子供が出会って、その後でクラス全体でどのように狙いに迫っていくかというところを考えたときに、やはり教材がいろいろあった方がいいと思います。読む資料だけではなくて、いろいろなタイプの教材があると子供たちもわくわくすると思いますし、発問のところに戻れば、そういうことを考えたときに余りにも発問が精選され過ぎているものが多くなってしまい、だったら教材でなくてもいいのではないかと、特別活動でもいいのではないかとと思っています。

私は、ねらいを深めて話し合う中心発問の前の基本発問がものすごく大事だと思っています。そのところを今まで余り頑張ってこられなかった先生方にはあった方がいいと思っています。

それから、子供たちがこの教材に出会ったときに、いろんなタイプの子供がいるので、読んでみたいとか、考えてみたい、あ、そうか、この教材はこういうことをみんなで考えていくのかということが、とてもわかりやすく子供の目に映るものが良いと思い、そういう意味からも、また2年しか使っていないというところからも、私も光村図書が宜しいかと思えます。

三田教育長)

私も一応、1年間という前提で考えていますが、他の教科書も同じようにということで見させてもらいましたが、ユニットにこだわっているのは、教育の適時性ということであり、例えば、いじめ問題について学習しようというときに、子供たちが現実には抱えている問題をどうやって解決に導かせていったらいいのか、そのために子供たちにどのように深く考えてもらったらいののだろうかというときに、1時間授業をやって、また何カ月か置いてまたという判断を誰もしないと思えます。教材を上手に効果的に使い、自分に向かい合ったり、人と関わりで相手に向かい合ったりする、そういう関係を作っていく上で、ユニットで学ぶというのはとても大事なことだと思ひ、先程、質問をさせていただきました。

そこで、ユニットとして扱っているのは光村図書と光文書院です。ただ、他社も見たら分類分けで使いようによっては同じような発想で弾力的に使えるのではないかということで、是非、教育の適時性と授業の弾力化というものを図りながら、ユニット的な発想で教科書を使っていく必要があるのではないかと思ひました。

ユニットとして定めている2社を比較してみました。例えば光村図書は「すれちがい」と「どうすればいいんだろう」というテーマで、下手したらすれ違いでいじめに転換しそうなそういう危機的な状況をストーリーで扱っています。そして、次は視点変更でテーマが自分を伸ばすという、つまり良い環境を作るということは大事であるということを見点変更で見たいけるという、そういう仕組みになっています。

それから、「一ふみ十年」というテーマで自然保護の立場から10年一区切りで自然が再生していくという話と、「宇宙から見えてきたもの」というテーマで地球の温暖化について真っ暗な宇宙から地球を見てみるといろんな映像が出てくるということで、対比的で巨視的な視点とミニマムで近視眼的な視点の両面から命ということを考えています。これもユニットとしての効果があると思ひます。

光文書院は、「命をかけて命を守る」という山岳警備隊の話と、「生きる力を引き出す笑い」という笑いの力の話の二つにユニットで、ささえ合う命ということに触れています。

それから、光村図書は、「すれちがい」と「どうすればいいんだろう」という話で解決策を一緒に考えています。先程の「一ふみ十年」と「宇宙から見えてきたもの」、そのような関係付けで、両方とも優れていると思ひますが、やや話が大きくて、いろいろな引き出しが多いのが少し私も気になりました。シンプルでじっくり自分の考えを述べたり、人の考えを聞いたり、自分で良いと思ひた発言はノートに書いたりということをして子供たちが白いキャンバスノートに自由に書いて、そして人の思いを受け止められるような、そういう学習展開をしてもらいたいと思ひます。

道徳科というのは、何か決まった形でそれを判で押したように学んでほしいという教科ではないと思います。子供たちが感動を伴って自分を支える、自分で考えることによって相手の気持ちも理解していくという人間の根本的、基本的な道理を作っていく大変重要な教科だと思います。そうした発想で行うためには、弾力性、自由性というのは非常に大きいので、シンプル・イズ・ベストで前回採択して光村図書が良いのではないかと私自身は思いました。

他に何かございますか。

白倉委員、宜しいですか。

白倉委員)

特にないです。

三田教育長)

それでは、皆さんのご発言はこれで終わりましたので、投票用紙にご記入いただいて、8社から1社をお選びいただきたいと思います。

<委員投票、確認>

三田教育長)

只今、ご確認していただきましたとおり過半数を超えるものがございましたので、これで道徳についての審議を終了いたします。

以上で、本日の教科書採択の審議は終了いたしますが、昨日申し上げましたように、一般図書につきましては、来月の8月28日の教育委員会で採択の発表も含めて行いますので、宜しくお願いいたします。

なお、傍聴者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。昨日、今日と朝から夕方まで、長時間にわたり熱心に傍聴いただき、中には展示会等にも足を運んでいただいた方も大勢いらっしゃるのではないかと大変嬉しく思っております。

教育というのは、国民一人ひとりが主体的に参加して成り立っていくものだと思いますし、私たち教育委員会も子供たちを一生懸命応援していくということで時間をかけながら今日まで進めてきた次第でございます。いろいろと足りないところはあるかもしれませんが、私たは力の限り知恵を絞って努力して、本日このようなところまで来たということでもあります。まだ審議が全部終了している訳ではございませんが、本当に長い時間お付き合いいただきまして、ありがとうございました。

また、出版関係の皆様におかれましては、各教育委員からお話があったとおり、どの教科も非常にすばらしい教科書を子供たちに提供していただいたということで、本当にお礼と感謝を申し上げて締めくくりたいと思います。

傍聴はここで退室となります。どうもありがとうございました。

<傍聴者退室>

三田教育長)

教育委員の先生方、事務局の皆さん、大変お忙しい中、2日間ありがとうございました。教育部長、庶務課長、指導課長、それから事務局の皆さんには酷な時間だったと思います

が、何とか無事に審議を終えることができました。まだ若干、審議が残っていますが、お礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

以上をもって、教育委員会を閉会いたします。

このあとは、鼻コレクション館の視察となりますので、よろしくお願いいたします。

(16時00分 閉会)